

校園長会研究会

会長 丸山研一

第50回全国国立大学附属学校連盟校園長会研究会、及び、平成29年度日本教育大学協会附属学校連絡協議会校園長分科会は、下記の通り実施されました。

開催日 平成29年8月24日(木)・25日(金)

会場 ホテルグランヴィア岡山

事務局 岡山大学教育学部附属学校園(幼・小・中・特支)

事務局代表 岡山大学教育学部特別支援学校

テーマ 変革期における附属学校園のありかた

参加者 158名

【第1日】8月24日(木)

◎ 開会行事

中矢明孝大会副実行委員長の司会で進行し、藤原嘉文校園長会副会長の開会の言葉に続き、丸山研一校園長会会長、田中智生大会実行委員長の挨拶、竹井千庫岡山県教育委員会教育長、菅野和良岡山市教育委員会教育長、榎野博史岡山大学学長、呉本啓郎全附P連会長から祝辞をいただきました。堀内かおる校園長会副会長の閉会の言葉の後、高橋敏之大会実行副委員長から日程説明があり、開会行事を終了しました。

◎ 文部科学省の説明

文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室室長の柳澤好治氏から説明がありました。主な内容は以下のとおりです。

- 文部科学省についての一般に向けた説明。
- 今後の児童数、学校数、教員数の推移、それに伴う公立小中学校の教員需要予測が示された。教員の需要は平成30年度頃をピークとしてその後は減少していく。教員養成系の国立大学・学部はこのことを踏まえた上で組織の在り方を考えて行かねばならない。このような状況の中で、附属学校園は今一度根本的な存在意義を見直す必要がある。

○ 国立大学附属学校園は、各校が考えているほど高い評価を外部から受けているわけではない。「進学校」である以外に特徴が見えない。地域のモデル校とはなっていない、大学との繋がりが見えてこない、などの意見がある。国費を投入している国立大学附属学校園に対しては世論の厳しい目が注がれていることを自覚しなければならない。

○ 国立大学附属学校園についての課題としては以下のものがある。

- ・入学者選抜の実施方法の見直し
- ・大学のガバナンスの強化
- ・教職大学院における教育・研究への協力
- ・附属学校に焦点を当てた評価
- ・附属学校園の研究・実践の大学側の活用
- ・教育委員会との連携
- ・保護者との連携に向けた取り組み
- ・研究・実践の成果の還元
- ・規模や在り方を見直し

○ 上記の課題に対して、中長期的には、各附属学校園は公立学校とは異なる国立大学の附属学校としての存在意義や役割、及び当該学校ならではの特色を明確化するとともに、各大学も附属学校園全体としての存在意義・役割分担・特色を明確にすべきである。そのためには、多様な入学者選考、モデル校を目指した改革、大学との有機的なつながりの構築などが求められる。また、附属学校園は、教職生活全体を見据えた教員研修に貢献する学校園へと機能を強化すべきである。早急に対応すべきこととしては、校長の常勤化、教員の働き方改革のモデルの提示、地域住民等の学校運営への参加、研究成果の提供・還元の具体的な検証方法の確立等がある。

○ 組織・体制については、第3期中期目標期間中(平成33年度末まで)に一定の結論をまとめなければならない。

○ 「有識者会議報告書をどう読むか」について。統廃合ありきではないが、具体的な成果と改善

が必要であり、全国の附属学校園との比較の中での自校園の実態の把握が必要ということである。

◎ 講演会

元岡山県立岡山盲学校教頭の竹内昌彦氏による、「私の歩んだ道 一見えないから見えたものー」と題する講演があった。中国で出生し、戦後に帰国するも幼少期に病のために失明。当時の厳しい社会的状況の中、ご両親や恩師の精神的な大きな支えがあつて盲学校で教員となり、退職後は、モンゴルとキルギスに盲学校を設立するなど、国際的な活躍を続けていることが述べられました。時にユーモアを交えた感動的な講演であつたとともに、視力障害を持つ方への接し方など、普段聞く機会のない内容もあり、貴重な講演でした。

【第2日】8月25日(金)

◎ 分科会及び情報交換会

幼稚園部会、小学校部会、中学・高校部会、特別支援学校部会に分かれ、調査・研究の取り組みとその成果が発表され、有意義な情報交換が行われました。

◇分科会提案<幼稚園>

○教育・研究・地域貢献の機能を高めるためのKAIZEN!ー富山大学人間発達科学部附属幼稚園の取り組みー

富山大学人間発達科学部附属幼稚園長
小林 真

○えんちょうせんせいになって、みえてきた幼稚園の魅力～課題は、大学と社会へ向けての教育内容のPRか!?～

愛知教育大学附属幼稚園長 富山祥瑞

○「変革期における附属学校園のあり方」

大学と連携し、子どもの輝く姿を発信する附属幼稚園の活動

奈良教育大学附属幼稚園長 玉村公二彦

◇分科会提案<小学校>

○「変革期における附属学校園の在り方」～『学びの総合化』を軸に据えた幼小中一貫教育～

信州大学教育学部附属松本学校園長
上村恵津子

○変革期における三重大学と附属学校園の連携体制について

三重大学教育学部附属小学校長 松浦 均

○進化する伝統・革新・未来への挑戦 学校長としてのスクール・カリキュラム・マネジメント

大阪教育大学附属平野小学校長 峯 明秀

◇分科会提案<中学・高等学校>

○変革期における附属学校園の在り方～北海道教育大学附属札幌中学校での取り組み～

北海道教育大学附属札幌中学校長 佐々木貴子

○変革期における附属長野中学校の特徴的な取り組み

信州大学教育学部附属長野中学校長 齋藤忠彦

○有識者会議における「附属の在り方」へ向けた変革の可能性～地方国立大学附属中学校の現状と課題～

三重大学教育学部附属中学校長 牧原義一

○「変革期における附属学校園の在り方」ーSGHとは別の「独自モデル」による国際化の模索ー

奈良女子大学附属中等教育学校長 渡邊利雄

◇分科会提案<特別支援>

○学校外とのさまざまな連携ー大学、県立特別支援学校、保護者ー

金沢大学学校教育学類附属特別支援学校長
綿引伴子

○国立大学附属特別支援学における現状と課題

愛知教育大学附属特別支援学校長 加藤祥子

○地域への貢献と特別支援教育への貢献

大阪教育大学附属特別支援学校長 山本利和

◎ 次期主幹校園

次年度は秋田大学教育文化学部附属学校園を主幹校園として、秋田市で開催される予定です。

開催日 平成30年8月23日(木)・24日(金)

会場 ホテルメトロポリタン秋田